

ぐるんぱ mail



2017年3月 第14号

発行きのくに子どもNPO

もしかして うちの子は宇宙人!?

自分の子どものことは何でも分かってるはず!
だって、親はいつも子どもの事を一番に考えてるんだもの。
けれど、時々何考えているのか分からなくて、親はどうしたらいいものやら、
途方にくれてしまう…。
やりたいことはやらせてあげたいけど、ワガママな子になってしまわないかしら?
しつけの事を考えると、少しくらい厳しくしないとイケないの?
子どもが言う事聞かない時って、どうしたらいいの?
もしかして、子どもの意味不明に見える行動も、
本当は親が見えてないことがあるのかも…。



他のママ達はみんな
上手に子育てしているよね。
子どももちゃんと言うこと聞いている
のに何でうちの子は〜。〜。
私の育て方が悪いの!?



ねえ、ママ〜ママ〜!
しゃべってほっかいけないで、
ちよつとボクの話きいてよ!



ごめんねって口ばかり
なんだから〜…。
また同じことやってる!

今バツがはねたよ
ねえママ見て〜!!!

なんでそんなに
グズグズ言うの!?



ママやパパはなんで
怒ってほっかいなんだ
(´へ´)



ケンカするほど仲良し!?



子どもと公園に行くと、子どもに注意ばかりしてしまいます。
「すべり台は早くすべて!」「知らないお友達の砂遊び道具は触らないで!!」 et c...。
仲の良いお友達のおもちゃを取りに行ったり、泣かせたり...。
なんで上手く遊べないんだろう。仲良くしてよ~(+_+) 訳わからん!!
他のママさんや仲の良いママ友に「子どもに注意をしない親」だと
思われてしまうのがこわいのです。

皆さんは、こんな時どうしてますか?



ぐるんぱママ達で「子どものケンカ」について話し合いました。
いろいろな意見も出ましたが「多少はケンカするのも大事なのかなあ。」という話に。
「少し不安だけど見守れたらいいよね。」ということで、早速仲良しメンバーで公園へ!

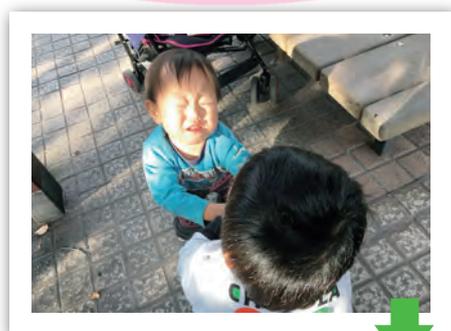
楽しそうに遊んでる~!



おっ、取り合いが
始まったぞ~!



あらら、泣いちゃったよ~。
どうする~?



またあそび出したわ。
自分達で解決してるじゃん!



えっ、もう収まったの?
途中で止めたらかうは
収まらないよね~。



なんか別の物、
渡してるし。



初めのうちは仲良く遊んでいたのに案の定おもちゃの取り合いが始まりました。
けんかして泣かし、泣かされていたのに、しばらくすると二人で仲良く遊んでいる
のでびっくり!!(* Q *)
ママが口出ししなくても子ども達だけで解決できるんですね。
子どもってケンカもするけど、大人に言われなくても、泣いている友達がいたら頭をなでて
あげたり、手を差しのべたりすることもあります。
見守るってなかなかできないけれど、子ども達の力を信じて、ママ同士理解出来る輪が
あれば子どもは子ども同士で成長していくのかもしれないね。

子どもの社会を 見守る

子どもの社会を「見守る」



幼稚園での園生活にも慣れた頃、担任の先生から息子があるお友達に頭を叩かれたとの報告を受けました。頭を叩かれたって…軽くなのか強くなのか気になり、先生にその時の様子をしつこく問いただしてしまいました。

息子は、初めは痛かったあと言っていたものの、ごめんなさいしたからもういいんだよ〜で終わってしまい、私だけが悶々として、帰宅したパパに、「もし相手の親が知らないんだったら、話のついでに伝えようか」と言うと、止めときと却下されました。おとなしくてやり返せない息子が不憫で、なんだかなあと思っていた数日後、今度は息子が自分の通行の邪魔になる数人のお友達を押し退け、その中の1人に当たり転びそうになったのを見てしまいました。えっ、うちの子あんなことするんだ…

幼稚園という初めての集団生活で新しい発見、嬉しいこと、嫌なこと、色んな体験をして頑張っている息子。そこに経験豊かな？親が介入して問題を解決するのは容易ですが、子どもが園という社会で様々なことを経験するのを親が間に入って盾になるのってどうなんだろう。もちろん、本当に言わなくてはならないこともあると思いますが、「見守ること」が大事なのかなと気付かされた気がします。

もうすぐ幼稚園生活も1年がたとうとしています。初めは同じお友達の名前しか言わなかったのが今では、グループも出来ているようです。

また、以前は私に怒られると泣いているだけだったのが、最近は怯まず泣きながらも理由を言い返してくるようになり、内面的にも変化のあった1年だったと感じています。

今は、帰り道に今日あった出来事を息子が一生懸命話してくれ、その内容を聞きながら幼稚園社会を覗いている感じを楽しんでいます。

くろちゃん

子どもを 感じる

心の声



私の娘は去年の4月より幼稚園に入園しました。私自身、早く幼稚園に慣れ、子どもさん、お母さん達と仲良くなりたいと思い、会うと「〇〇ちゃん、おはよう！」

「〇〇くん、行ってらっしゃい！」「今日も頑張ってきてね！」など声かけをしていました。笑顔で返事してくれる子、恥ずかしそうにハニカム子がありました。

そんな中、全く反応してくれない子がいました。

私は内心、「愛想のないかわいくない子だなあ」と思っていました(すみません)。それでも会うたびに声をかけ続けました。だけど反応がなく私の心が折れそうになったある日、恥ずかしいように笑顔であいさつしてくれました。

その笑顔のかわいいこと。

その時、この子はすごく慎重で

知らない私に簡単に心が開けなかったんだと初めて気付きました。その子の表情だけしか見てなくてその子の気持ちや思い、考えを知ろうともしなかった自分が情けないです。今はそれを気付かせてくれたその子に感謝したい気持ちです。

これからは子どもたちのちょっとしたサインにも気付いてあげられる大人になりたいと思いました。



愛子の娘

知っていますか？

世界の約束「子どもの権利条約」

「子どもの権利条約」は世界中すべての子どもたち（18歳未満）が持っている“権利”について定めた国際条約です。平成元年の国際連合で採択され、日本も平成6年にこの条約を結んでいます。

条約では、子どもは指導管理される弱い存在ではなく、人として独立した人格もっていることを認めています。「おとなのよかれ」が子どもにとって

一番いいとは限らない。まず子どもの声を聴く。そしておとなと子どもと一緒に考える。

「子どもは自分の人生の主演であり、社会の担い手として重要な存在である」

ということ、世界の共通認識として定義付けたのです。

子どもはさまざまな面で親や大人に保護・支援・援助されなければならないことには変わりありません。

本条約は54条からなりますが今回は条約の大まかな4本の柱を紹介します。



【生きる権利】

安全な水や十分な栄養を得て健やかに成長できること。病いやけがをしたら治療を受けられることなど。



【育つ権利】

教育を受け、休んだり遊んだりできること。考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができることなど。



【守られる権利】

あらゆる種類の虐待や搾取などから守られること。障害のある子どもや少数民族の子どもなどはとくに守られることなど。



【参加する権利】

自分に関係のある事柄について自由に意見をあらわしたり、集まってグループをつくったり、自由な活動をおこなったりできることなど。



参考サイト ユニセフ・子どもの権利条約 解説と条文抄訳 (小学高学年以上) www.unicef.or.jp/kodomo/kenri/syo1-8.htm

私には3歳の娘がいます。先日、公園に行くと大きな水たまりができていて、娘はすぐに遊びだしました。「入ってもいい?」と聞いてきた時、普段なら靴が濡れるので止めますが、イキイキと楽しそうに笑う娘を見て、(自分が子どもの頃も水たまり好きだったなあ)と思い出し、思わず「いいよ」と言ってしまいました。「寒いのに〜!」「うわ〜すごい!大丈夫なの?」と、横を通る方はみんな驚いていましたが、普段人見知りで私にべったりひっついてる娘も、その時は人の目も気にせず一人でキャーキャー言ったりジャンプしながら、夢中で遊んでいました。

帰り際に「靴が気持ち悪い〜」と泣き出しました。抱っこして帰らないと大泣きするだろうなあと思っていたのに、意外にもすぐに泣き止み、自分で考えて靴とタイツを脱ぎ、車まで持って歩き始めました。

日頃から「お料理したいー危ない」「水(泥)遊びしたいー服も靴も濡れる!風邪ひくよ!」「自分で牛乳つぎたいーこぼすから!」そして失敗したら「だから言ったでしょ」と言っ

てしまうことがあります。

私も子どもの頃は親にあれこれ反対されることが多く息苦しく感じていたのに、子どもが自ら考え行動できる力を信じずに「今したい」という素直な気持ちよりも、結果や先を考えすぎてしまっていたと改めて感じました。

権利条約では子どもは親とは違う“独立した人格”であると言っています。一人一人が自分らしく、自己肯定感を高めて育つためには、受け身の子どもから主体的な子どもになれるようきちんと「対話」することが大事だと思いました。そのためにきちんと子どもの言葉に大人が耳を傾け、子どもの過ちや失敗も成長の証として認めてあげられる余裕を持ちたいです。

すずママ



子どもを真ん中に 支え合う

みんなの輪の中へ



娘は外遊びが大好きで、公園に連れて行って私と二人で遊んでいる時、それはそれは楽しそうで可愛くてたまらなかった。なのに他の子が現れると、とたんに機嫌が悪くなり、お友達になるどころか、おもちゃを取り上げる、手が出る、会う子会う子を泣かせてばかり。申し訳ない気持ちがいっぱいで居た堪れなく帰っては、どうしてだろう…他の親子に会ったら迷惑ばかりかけてしまう…だんだんと人の居ない公園ばかり探して遊ばせるようになっていました。

楽しそうな親子サークルの姿を見ると、この子は迷惑をかけてしまうだろうから「怖い」とさえ思い、自分の子を信じられなくなって、そんな自分がすごく嫌でした。

だけど生まれてから毎日、可愛くて可愛くて、私に幸せをいっぱいくれるこの子の良いところ、沢山あるのに、それを出せるように、できること何かないかな。そう思って訪れた親子の居場所、話を聞いてくれ「大丈夫ですよ」と言ってくれるスタッフの方の言葉に涙が出ました。

だけどやっぱり他の子を泣かせてしまう。みんなほんのひと時楽しく過ごしに来ている場所なのに、やっぱり迷惑をかけてしまうとあきらめかけた時、「大変そう、力になれることないかな」と接してくれたママたちが居てくれました。けんかになってもすぐに引き離さず「子どもたちどうするかな?」と一緒に見守ってくれる人。「それは悪いよ」とうちの子に叱ってくれる人。「うちの子も悪かった」と子どもの気持ちを汲んでくれる人がいました。

私はだんだんと、けんかをする時、手が出てしまう時、すぐに止めていた時には分からなかった、子どもには子どもの理由があることが分かってきました。

「自然の中へ連れて行こう、うちの子変わったよ」と誘ってくれる人がいました。「自然の中だと生き生きしてる」「前より落ち着いてきたね」と喜んでくれる人がいました。みんなの中に飛び込んで、できること全部やってみようと思え、気が出てきました。

「赤ちゃんが大好きなのね」とベビーカーを押させてくれる人がいました。

ママたちの声を聴いていると、自分では気づけなかった子どもの気持ちを知ることができました。

「子どもの気持ちを大切にする」とはどういうことか、私にも少しずつ分かってきたように思います。夜泣きはひどいのに、人前で泣くことのなかった娘、「欲しいんだね」「一番にやりたいんだね」「恐かったんだね」気持ちを汲むと、私に抱きついて泣くようになりました。私は自分の一番悪かったところに気が付きました。

他人に迷惑をかけたくない。だから他の子におもちゃを貸して欲しい。他の子に順番をゆずってほしい。誰とも喧嘩をしないでほしい。いい子でいて欲しい。

私は「大人の遠慮」を小さな娘に押し付けていました。ママ友＝「大変そう」「怖い」と勝手に作っていた私の心の壁が、小さい娘に無理をさせていた。それがすべての発端だったと思います。

仲良くなるのに遠慮は必要ない。そう皆さんが、子どもたちが、教えてくれたように思います。

娘は短期間で驚くほど成長しました。友達ができました。けんかをして、また仲良く遊んで、楽しそうな嬉しそうな顔を見ると、本当に幸せです。

私も今では「うちの子もやられてた!!」わはは一と一緒に笑ってくれるママ友だちができました。

どんなに輝いて見えるママにも悩みがあって、みんな必死で試行錯誤しながら子育てをしている。我が子よその子関係なく、褒めたり叱ったり見守ったり、その時その時に、それぞれできることをしながら「一緒に育てよう」と態度で示してくれたママたちに支えられて、私もできること「何でもやってみよう」と思えるようになりました。

この先、そんな人たちがばかりに出会えるわけではないだろうけど、「必ずどこかに理解してくれる人が居て、その出会いを力に変えていく力があなたにはある」と信じてくれる人がいます。自分のことも娘のことも信じて、これからも、人の輪の中に飛び込んでいこうと思います。

以前の私の様に悩んでいる人がこれを読んで、一人でも、みんなのところに飛び込んでみようと願ってくれることを願っています。

ココママ

子どもが
輝く

好奇心の目をのばそう!

もりのようちえん☆ジオジオ

自然の中で子ども達の「やってみたい!」気持ちを大事にしながら、遊べたらいいな。そんなお母さん達が集まって自主保育の会(もりもりキッズ)を立ち上げました。

自主保育の会では、お母さん達自身が活動場所を決め、保育も行っていきます。週に1回、おさんぽをしながら、自然の中で出会う驚きや発見、喜びを見守り、子ども同士の関わりを大切に遊んでいます。

そこで遊びを経験した子ども達が、更に自然の中で遊び込み、仲間との関係を深めていけるところが、森のようちえんジオジオです。もりのようちえんジオジオでは、子ども達は親から離れ、保育スタッフと一緒に自然を探検します。お弁当や着替えの入ったリュックを背負い、雨の日も雪の日も出かけます。山の中に響く鳥の声に耳を澄ませ、姿を想像します。植物の感触を楽しみ、色や形の違いを発見します。山イチゴを見つけてすっぱさを味わい、イノシシが歩いた跡を確かめたり、泥にまみれながら崖登りに挑戦することもあります。

土のおいを感じ、風を受け止め、いのちのきらめきを目のあたりにしながら、感覚を研ぎ澄ませて豊かに遊びます。

12月のある日、みんなから遅れて歩いていた子がいました。先を歩いていた子が走って来て「迎えに来たよ～。一緒に行こう。」と声をかけました。子ども達は、にっこり笑って、ふわっとした暖かい空気に包まれました。その暖かさは、その場にいた仲間だけが共有できる感覚です。

雪が舞う風が冷たい日、寒くて泣き始めた子がいました。それに気づいた子が心配そうに、泣いている子の手をさすりながら温めはじめました。風をあたためることはできなくても、心の中はあたためられました。

そんな経験を繰り返しながら仲間との絆は深まっていきます。仲間と喜びを共有し、時にはぶつかり合い悔しい思いをし、なくさめ合いながら、お互いを仲間として認め合う関係を築いていきます。



■プレーパーク

- ・子ども自身が「やってみたい」と思うことを自由にやれる場所です。
- ・子ども一人一人の思いがかなうよう、プレーリーダーや地域の大人みんなで知恵を出し合って運営している遊び場です。
- ・「子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ」ことをモットーにしています。

開催日：第4土曜日午後1時～4時
開催場所：和歌山市梅原梅原児童遊園
主催：きのくにプレーパークの会

■もりのようちえん☆ジオジオ

対象：3才前後～就学前(きのくに子どもNPO会員対象)
活動日時：毎週 月・金曜日(分離保育) 9:30～13:30
火曜日(親子保育) 9:30～11:30
場所：にこにこのうえん(府中)、近郊の里山 他

■もりもりキッズ

対象：1才～就学前の親子(きのくに子どもNPO会員対象)
活動日時：毎週火曜日 9:30～11:30
場所：にこにこのうえん(府中)、近郊の里山 他

こどものほほえみエピソード

♥癒される〜♥

4才の息子は、1歳になる妹をいつも嫌いと言う日々。ある日急に「お母さんゴハン食べて。ボクが妹にゴハンあげとくから」と。

弟が持っていたおもちゃを姉に無理やり取られそうになって、逃げているのにめっちゃ笑顔。

よくケンカするのに、朝だけは先に目覚めた方が隣で寝ているもう一人を起こして、二人一緒に布団から出て、遊び始めます^ー^

3歳のお姉ちゃん1ヶ月の弟に何かしているなあとこっそり近付くと「オムツ濡れてる」と言いながら、かえてくれていた。

♥頼りになります!! ♥

わたしが骨折して利き手が使えなかった時、子ども達が掃除や料理、着替えなど自分から手伝ってくれた。普段とは違う子ども達の姿に嬉しくなった。

世話好きの娘。パパがお仕事に行く時は、着替えのお手伝いをしてあげています。最近ではパパのトイレまでついていって、ティッシュを準備して拭こうとしていました。

息子が友達と凧揚げをしていた時、年下の子が凧糸を上手く巻けずに困っていると、糸を巻くのを手伝い始めた。ちょっと前までは一番小さかったのに。

♥いっぱいパワーもらってます!! ♥

夜寝る前に子どもと布団の中でギュッと抱き合う時。お互い“大好き”と言いつつ時間が一番幸せです。怒ってしまったことをクヨクヨ思っている時、この一瞬で仲直り!

おすすめ絵本

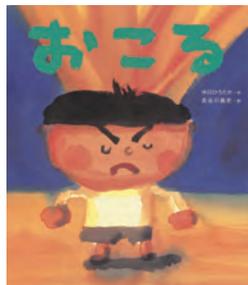
子どもの気持ち、ほんの少し分かるかも?



はじめてのおつかい

作：筒井頼子 絵：林明子
出版社：福音館書店

はじめておつかいをするみいちゃんのドキドキが繊細に描かれています。



おこる

作：中川ひろたか 絵：長谷川義史
出版社：金の星社

毎日おこられてばかりのぼくは考えます。「なんで人は怒るんだろう?」



まさかおさかな

作：フェイ・ロビンソン 絵：ウェイン・アンダーソン
出版社：BL出版

おさかなが大好きなエリザベスが手を洗っていると、飛び出してきたのは?



きみなんかだいきらいさ

作：ジャニス・メイ・コドリ 絵：モリス・センダック
出版社：富山房

ぼくとジェームズはなかよだったよ。でも、もうだいきらいさ。ふたりは仲直りできるかな?



りゆうがあります

作：ヨシタケシンスケ
出版社：PHP研究所

ぼくの考えるりゆうに思わずふさだしちゃいます!



おこだでませんように

作：くすのきしげのり 絵：石井聖岳
出版社：小学館

ぼくはいつもお母さんや先生におこられる。どないしたらおこれんとほめられるんやろ。

〜他にもこんなものがあります♪〜

- ・ごきげんなすてご / 作・絵：いとうひろし 出版社：徳間書店
- ・やっかいなおくりもの / 作・絵：いとうひろし 出版社：徳間書店
- ・ピーターのいす / 作・絵：E=ジャック=キーツ 訳：きしまはじめ 出版社：偕成社
- ・くんちゃんのはじめてのがっこう / 作・絵：ドロシー・マリノ 訳：まさきりこ 出版社：ペンギン社
- ・くんちゃんのだいいょう / 作・絵：ドロシー・マリノ 訳：石井桃子 出版社：岩波書店

〜 編集 後 記 〜

毎日の生活の中で子どもと一緒にいても子どもの言い分や心情を見過ぎてしまうことはありませんか?私はいっぱいあったらうなあとと思います。子どもは自分の気持ちを言葉では上手く言えません。何とか汲みとって上げたいのだけど、努力しても分からないものはわかりません。こんな時はドラえもんに出てくる「翻訳コンニャク〜!」があればなあと思うけど、そういう訳にもいかないし…そこで、子どもを知るには遊びが一番だ!と思い込み(笑)、親も子どもと一緒に本気で遊ぶのだ!(笑)の気持ちで子どもと一緒に遊び、その中で見せる子どもの表情や行動を見ているうちに気持ちが少し見えてくるように感じました。最近私は子どもとオセロにはまり遊んでいるのですが、負けると私は本気で落ち込みます。その上もう一回!もう一回!と勝負を挑まれるので疲れます。でも子どもの楽しそうにしている顔を見たり、成長したな〜と感じたりすると嬉しくなります。今しかないそんな時間を大切にしたいと思っています。

(山田 薫)

編集委員 明石依子 上田聡子 小田暁 柏木めぐみ 桑原江里 西浦順子 松場明美 箕澤由紀子 村畑佳美 矢島有香子 山田薫 (五十音順)